



1 マー君いいところあるじゃん

「小さな親切」運動の紙芝居

マー君いいところあるじゃん

脚本
解説

(社) 「小さな親切」運動本部

紙芝居による「心の教育」プロジェクト
みんなで「しんせつさん」になろう

絵

鶴岡 安通志

演出ノート

「マー君いいところあるじゃん」

(題名のみ読む)

ぬく

みんなで「しんせつさん」になろう

(社) 「小さな親切」運動本部

「小さな親切」運動は、『できる親切はみんなです。それが社会の習慣となるように』を合言葉に、親切な思いやりのあふれる社会をめざして活動しています。

その一環として、次代を担う子どもたちの心豊かな成長の一助になるよう、紙芝居による「心の教育」プロジェクトを立ち上げて、《みんなで「しんせつさん」になろう》を広める活動を行っています。

プロジェクトでは「小さな親切」作文コンクール入賞作品をもとに、「親切の心」「生命を大切にする心」「お互いに尊重し合う心」を育むよう、小学校用教材としても活用できるプログラム開発を行い、オリジナル紙芝居を三作品製作しました。

「マー君いいところあるじゃん」は、「お互いに尊重し合う心」「生命を大切にする心」を育む教材となっています。

嫌われもののマー君が、果から落ちたつばめのヒナを拾います。それを見ていた一郎君は、マー君のやさしい一面に気がつき、今までの見方を変えていきます。

一郎君らの心情変化を通し、友人を尊重し合う心を伝えていきます。



マー君いいところあるじゃん

放課後のおそうじの時間です。

サツちゃん「マー君、ちゃんとおそうじして！」

ほうきなんかふり回さないでよ。」

サツちゃんはマー君に注意をしますが、

マー君はへっちゃら、

いっこうにやめません。

そうじがおわると、ほうきを投げ出して

一目散にかけ出していつてしまいました。

演出ノート

大きな声で



3

マー君いいところあるじゃん

サツちゃん 「一郎君聞いてよ。」

ホントにマー君は乱暴なんだから。

けさだって、私のうわばきを

ボールみたいにけっ飛ばしたのよ……」

一郎君 「そうだったの。マー君は少し乱暴だね。」

サツちゃん 「一郎君は学級委員でしょ、

もっと注意してよ！」

一郎君 「そつ、そうだね。」

マー君は、落ち着きがなく、

人の邪魔ばかりするので、

クラスのきらわれものになっています。

でも、一郎君は、

おとなしい性格なので注意はできません。

むしろできるだけ、

かわらないようにしてきました。

演出ノート

大きな声で

おどおどした
様子で



4

マー君いいところあるじゃん

(参考) 鳥のヒナ

つばめやスズメなど、野鳥のヒナには、絶対に触らないようにご指導ください。ご参考までに、日本野鳥の会の月刊誌「野鳥」の一部を抜粋引用します。

巣から落ちたヒナは、助けるなら巣に戻してあげましょう。生まれたてのヒナは、親鳥による保温やケアが必要で、人の手で養うのは難しいです。ヒナも途中で巣から落ちたり、外敵に襲われて死んだりするものが少なくないのが自然の仕組みです。巣立ち直後のヒナは、まだ人を警戒することを知らず、動作が鈍く、うまく飛べません。親鳥による給餌や安全管理のもとで、生きのびる術を学習している大切な時期です。ヒナを拾って持ち帰ることはやめましょう。

(「野鳥」日本野鳥の会 632号)

ある日の放課後、

マー君は校舎のすみで、

つばめのヒナを拾いました。

マー君「巣から落ちて、ぐったりしちやつてる。

だいじょうぶかな。」

マー君は心配そうにつぶやき、

ヒナを大事そうにかかえました。

クラスの友だちも、

クラスの友だち「ヒナ！ さわつてもいいの？ 大丈夫なの？」

クラスの友だち「まだ生きてるのかなあ？」

心配そうです。

演出ノート

心配そうに



5

マー君いいところあるじゃん

マー君は、ランドセルの中から、クシヤクシヤになった体操服を取り出して、その上にそっとヒナをのせてあげました。

マー君「けがしているのかなあ？」

いま、水を飲ませてあげるね。」

ヒナに話しかけながらマー君は、ティッシュペーパーに水をふくませ、くちばしへ何度も運びました。

そのたびにヒナをのぞきこみ、そつと指先でなでてあげました。

そばで見えていた一郎君は、心の中で

一郎君の
心の中

『マー君、ヒナにさわらないほうがいいんじゃないかなあ。』

「鳥にはさわらないこと」って、

先生も言ってたし。

先生を呼んでよかったなあ。』

と思いましたが、ただマー君をじっと見つめていました。

演出ノート

やさしそうに



6

マー君いいところあるじゃん

マー君がいくら手当てしても、

ヒナはぐったりしたまま動きません。

マー君は、目にいっぱいなみだをためて、
体操服を持ったまま、

ぼう然と立っていました。

マー君を

遠巻きにしていた友だちは

クラスの友だち 「ダメなんじゃない？」

ヒナ死んじやったんじゃないの？」

クラスの友だち 「先生に言ったらいいのに。」

クラスの友だち 「ヒナに病気になるかもね…。」

口々に言いながら帰っていきました。



7

マー君いいところあるじゃん

校庭のすみには、もう、
マー君と一郎君しかいません。

どのくらいの時間がたったのでしょうか。

マー君は、水を飲ませることを
あきらめました。

そして、冷たくなったヒナを
やさしくだきしめました。

——間——

マー君はくちびるをかみしめると、

校庭のすみに小さな穴をほり、

ヒナを埋めました。

一郎君は何も言えず、

ただ、じっとマー君を見つめていました。



8

マー君いいところあるじゃん

次の日の朝。

クラスは、

つばめのヒナの話でもちきりです。

クラスの男子「ヒナ死んじやったよ。」

マー君、先生に言えばよかったのにね。」

クラス的女子「でもさ、マー君一生けん命だったよね。」

一郎君「そうだよ。おとうさんが、

巣から落ちたヒナを育てるのは

むずかしいって言ってたよ。」

一郎君は、マー君をかばうように言いました。

演出ノート

マー君をかばう
様子で



9

マー君いいところあるじゃん

きのうから、マー君を

ずっと見ていた一郎君は、

つばめのヒナが死んで

一番ショックを受けているのは、

マー君じゃないかなあと思いました。

一郎君の
心の中『今まできらっていたけど、

マー君、いいところあるじゃん。』

一郎君は、きらわれもののマー君の

やさしい一面に気づきました。

演出ノート

明るく
ハキハキと



10

マー君いいところあるじゃん

それから、一郎君は、

マー君の行動を、

よく見るようになってきました。

ある日、そうじが終ってから

ダッシュで走っていく

マー君の後を追いかけると、

マー君はある校舎の一角を

じっと見つめていました。

一郎君は、

思いきってマー君に話しかけました。

「マー君「何してるの？」」

マー君「えっ、オレ？」

演出ノート

びっくりした
様子で



11

マー君いいところあるじゃん

学級委員の一郎君に話しかけられた、

マー君はびっくり。

マー君「ほら、あそこ、

つばめの巣があるだろう。」

一郎君「へえ、あんなところに巣があるんだ！」

マー君「ヒナが落ちてから、

オレ、ずっと見ているんだ。

急に一羽いなくなっちゃって、

親つばめが心配してるんじゃないかな？」

一郎君は、マー君の話を聞いて、

『やっぱりマー君、いいところあるじゃん。』
心の中の一郎君の
と思いました。

演出ノート

驚いた様子で

親つばめを
気づかぬ
様子で



12

マー君いいところじゃん

ある日のこと、

校庭の花だんで、またまた、

サツちゃんがマー君に注意をしています。

サツちゃん「せっかくさいいた花に何するの！」

マー君は、数本の花をつかむと、

校庭のすみへ走っていきました。

サツちゃん「待ってよう。」

サツちゃんはさけびながら

追いかけていきます。

一郎君もいっしょに追いかけました。

演出ノート

大きな声で

大きな声で



13

マー君いいところあるじゃん

校庭のすみに花を置くと、

マー君はまたダッシュで

教室のほうへ走っていきました。

サッチャン「あそこなにかしら？」

サッチャンは一郎君に聞きました。

一郎君「マー君があそこへ

ヒナのお墓を

つくってあげたんだ。」

サッチャン「へえ、マー君、いいところあるじゃん。」

一郎君「うん。マー君、いいところあるんだよ。」

おわり

演出ノート

不思議そうに

照れくさそうに

しみじみと